



社会保障施策について幅広く意見交換した

県社保協

淡路市へ国保改善など要請

協会も参加する兵庫県社会
保障推進協議会(県社保協)は
十一月十四日、淡路市と社会
保障施策などについて懇談を
行った。

淡路支部ニュース

2011.11.25

No. 276

兵庫県保険医協会
淡路支部
〒790 淡路市物部三三-44
松本区院内
☎0799-2210041

国保保険料滞納世帯に対し
て保険証を送付せずに自治体
側で留めておく「留め置き」の
件数や、窓口でいったん医療
費の全額を支払わなければな
らない「資格証明書」の発行
件数が昨年に比べ著しく増
加していることについて淡
路市は、経済的理由から保
険料が払えない世帯が増え
ていることが背景にあると
の認識を示した。

社保協側は「保険料を払
いたくても払えない世帯に
まで、事実上の無保険であ
る留め置きや資格証明書発
行をするのは問題」などと
指摘した。

Let's...

あなたの情報源
は？ TV・ラジ
オ？ 新聞・雑
誌？ インター
ネット？ ラジオ
という方はほとん
どゼロでしょう。

古来？新聞は四
大紙のうち一紙と地方新聞一
紙を購読というのが定説のよ
うである。当然かもしれない。
雑誌は文春ともう一誌。活字媒
体は衰亡の傾向強く、最近の雑
誌はよく知らない。スポーツ新
聞や週刊誌も患者さんとの対
話や待合室の噂話にも有用の
こともあり、一概に棄てきれな
い。テレビの方はどのチャンネ
ルか、定説みたいなものはない
でしょう。

ネットでは各紙一面という番組が
あり、当日の四大紙の一面が
写し出されるのは数分だが有
益。もう一つは午後十時から
ラジオNHKの「今日の
ニュース」。以上の二つ。

新聞は現在は産経だけ(以
前は図書館で四紙と神戸新聞
に一応目を通していた、大き
い文字を拾い読む。次いでコ
ラムと淡路欄とベタ記事。『ベ
タ記事恐るべし』の影響では
ないが)。家庭欄に医学的知
識の補充や稀に誤・旧説を発
見することもある。最後に
穴？毎日新聞社からの月刊誌
『NEWSがわかる』(三三〇
円)が私の現在購入している
唯一の雑誌である。

医薬学方面の情報源、さら
に集積した情報の捨て方は稿
を改めて；そして、以上に関
する皆様のウンチクをぜひ頂
戴したいものである。

【松本記】

十月十五日に開催した淡路支部在宅ターミナルケア研究会「在宅末期がん患者における緩和ケア」(講師は関本クリニック院長・関本雅子先生)の参加者感想文を紹介する。

その人らしく最期まで

洲本市 高田 裕

関本雅子先生の講演要旨は、以下の通りである。



講師の関本雅子先生

わが国のがんの現状は、一九八一年以降死因の首位を占めており、三人に一人が、がん で死亡している。死亡場所ではホスピス六%、在宅八%である。兵庫県は二〇〇九年は在宅十二・四%で全国で二位、淡路島は十四・六%で県下で三位と在宅死の割合が比較的高い地域である。

二〇〇七年に、がん対策基本法が制定された。その内容は、患者の立場に立った法案であるということである。例えば、治療の初期段階から緩

和ケアが実施される、住み慣れた地域で療養できる緩和ケアを実施するすべての医師が緩和ケアの研修を受ける—などである。

関本先生は開業して九年間で七百数十人の患者さんを担当し、半数が在宅死だった。

現在、医師一人、看護師三人で在宅ホスピスにあたっている。亡くなられるまでの患者一人あたりの平均期間は約一月。最初は週一回の訪問診療と訪問看護で開始するが、最後の一週間は、ほぼ毎日の往診、訪問看護が必要となることが多い、訪問看護ステーションとも連携してあたっている。

疼痛緩和の基本として、緩和ケアは「患者本人が痛むと言っているもの」に対して実施される。第一段階は痛まずに良眠できる、第二段階は安静時に痛まない、第三段階は

体動時にも痛まないことである。

非オピオイド系鎮痛剤としては、副作用の少ないアセトアミノフェンが使いやすい。

弱オピオイド性鎮痛剤としては、軽度から中等度のがん性疼痛に麻薬、向精神薬として指定されていないトラマドールが使いやすい。最近ではアセトアミノフェンとの合剤が発売されている。

在宅ホスピスにおけるオピオイドとして、嘔気、便秘などの副作用の少ないデュロテックパッチを多用している。

緩和ケアの目標は最期までその人らしく生きることであり、その人らしくとは「その人が大切にしたいことを最期まで守る」ことである。

関本先生は最後に、「医療者のための緩和ケアにならないで！」と締めくくられた。

第20回日常診療経験交流会

淡路支部会員も演題発表や作品出展

10月30日(日)於：県農業会館



(左)「患者満足度の把握に外来アンケートを実施して」を発表した洲本市・たかたクリニックの高田裕先生(淡路支部長)



(右)併行企画「あなたとわたしの展示会」に「白山(石川県)より早朝の室堂平をのぞむ」「南米旅行のスナップより」を出展された洲本市・仲野整形外科医院の仲野秀介先生

※「兵庫保険医新聞」十一月二十五日付に詳細掲載

インターネットで保険医協会へアクセス!!



★情報満載!兵庫県保険医協会ホームページ

<http://www.hhk.jp/>

★会員専用のメーリングリストを開設しております。
登録いただける方は下記までお知らせください。

e-mail:hyogo-hok@doc-net.or.jp

本の紹介

青木はつる

『食物本草をよむ』

角川学芸出版 定価1260円(税込)

日本の医学の源流そして底流には「本草学」があると心得ています。ドクターにとつて、「本草学」の基本に通ずることは甚だ益多しと拝します。

「本草学」のすべて―その古代的な原理の解説から一木一草の解説に至るまで―を読み下すうちに、しつかり「本草学」学習することのできる格好の一書が誕生しました。

若くして著者は、日本の漢方医学の復権と復興のために全生涯をささげられた「竹山晋一郎氏」の愛弟子であられました。「新日本医師協会」(「新医協」)の鍼灸部会を束ねるとともに、新しい医師と医療従事者の創出のために、そ

して新しい医学―鍼灸も含む―を創出するために奮闘されてきました。

実は私も大学にあつた若き頃、「新医協」の幹事として青木さんと同じ戦列にありました。その限りで青木さんとは同じ道、とりわけ伝統的な日本の鍼灸術を守り育てていく上で、同志でした。光榮にも同志でありました。その青木さんが本書を上梓されたのです。これに勝る喜びはありません。

「本草学」を貫く陰陽五行説―十干と十二支の組み合わせで運用される―の万人にも分かる平明な解説がはじめに置かれていきます。そして古代社会に発したこの論理学に導かれて一木一草を私たちは理解す

ることになります。

漢方医学の歴史的な盛衰をも述べられた中で、森道伯師が当時の日本人の体質を漢方医学の立場から三型に分類されたその業績は、後学のものが必ずや学ぶべき道標であることを教えてくれています。

そして、古典の章句を原文から解説しつつ、今に照らして青木さん自身の見解が示されます。一木一草に及ぶ青木さんの見解を知ることによって、私たちは滋養されることになりま

す。この本をお読みになることは、絶対的に自分の診療に、そして患者さんとの接遇に、プラスになることと信じています。多くのドクターに、この書を食べていただきたい。そして、日本の医療が広く深く耕され、草木のように繁茂することを祈念するものです。

【洲本市・歯科 藤原 知】

投稿を募集しています!!

支部ニュースへの投稿を募集しています。日常の診療にかかわることや主張など、テーマは問いません。地域色豊かな話題を淡路の会員の先生方で交流したいと思います。医科・歯科連携のアイデアなど、お寄せください。

【FAX】 078-393-1802

【E-mail】 kusunoki@doc-net.or.jp

淡路支部担当 楠 まで

